

植民地朝鮮の民族宗教

— 国家神道体制下の「類似宗教」論

あおの まさあき

青野正明 著

▼A5判・上製カバー・三三〇頁・本体三、八〇〇円十税

2018年11月刊行



植民地朝鮮の民族宗教を、独立を目指す民族主義的ナショナリズムの受け皿として分析し、国家神道体制下でどのような位置に置かれたかを著者による帝国神道論に即して考察。

【目次】

序 章 国家神道体制と民族宗教・「類似宗教」

- 一 植民地朝鮮の民族宗教とは
- 二 国家神道体制の朝鮮への移植
- 三 「類似宗教」概念とは
- 四 朝鮮の終末思想
- 五 本書の構成

第一章 農村における民族宗教の基盤

- 第一節 農村での巫俗の変容
- 第二節 農村での契の自治的再編

第二章 朝鮮総督府の「迷信」概念と巫俗信仰

- 第一節 三・一運動後の調査事業
- 第二節 調査資料『朝鮮の巫覡』
- 第三節 「巫子取締法規」の到達点

第三章 朝鮮総督府の「類似宗教」概念と終末思想

- 第一節 「類似宗教」概念の形成
- 第二節 調査資料『朝鮮の類似宗教』
- 第三節 「類似宗教」の「解散」「改宗」

第四章 天道教の「地上天国」建設

- 第一節 朝鮮農民社の「郷村自営論」
- 第二節 「郷村自営」運動の実態
- 第三節 農民にとっての「郷村自営」
- 第四節 農村振興運動による受難

第五章 金剛大道の予言の地

- 第一節 金剛大道の信徒村
- 第二節 受難の予兆
- 第三節 信徒村の受難
- 終 章 普遍性のある民族宗教論を目指して
- 一 民族宗教運動の二類型
- 二 論点の整理
- 三 「改宗」協力の内実

巻末付録 金剛大道提供の写真
あとがき

◆著者略歴

一九五八年生まれ。大阪外国語大学外国語学部朝鮮語学科卒業。筑波大学大学院修士課程地域研究研究科修了、同大学院博士課程歴史・人類学研究科中退。博士（学術・国際日本文化研究センター）。朝鮮史専攻。現在、桃山学院大学国際教養学部教授。著書に、『帝国神道の形成——植民地朝鮮と国家神道の論理』（岩波書店、二〇一五）、『日本植民地研究の論点』（共著、岩波書店、二〇一八）、『植民地朝鮮と宗教——帝国史・国家神道・固有信仰』（共著、三元社、二〇一三）などがある。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様冊
青野正明著 法藏館 本体三、八〇〇円十税 植民地朝鮮の民族宗教 — 国家神道体制下の「類似宗教」論 ISBN: 978-4-8318-5557-2 C3014	
お名前	住所
お電話	

ご注文はFAX: 075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

宗教史・朝鮮史・近代